

夢の宅配便

小田原市立城山中学校
学年主任 水野喜代治

「自分を振り返る心」

交通事故が起きると、その事故の責任問題をお互いが言い争うことになります。「あなたは、速度を守っていませんでしたよね。」「あなたは、一時停止をしませんでしたよね。」このように、相手の過失を言い合ってお互いの責任の割合を決めます。「この事故は私の責任は30%でああなたの責任は70%ですね。ですからあなたが70%保証してください。」こんな具合です。

この理論を良い悪い、正しい、正しくないという感情的なものに置き換えてしまうと、私が悪かったのは30%で70%は悪くない。私の悪かったのは70%で30%は悪くないとなって、どちらも100%悪くないのだから謝らないということになってしまいます。

友達の机にぶつかって、机を倒した。「きみが、前をしっかりと見ないで歩いているから僕の机にぶつかったんだよ、謝ってよ。」「君の机が列から外れて出張っていたからぶつかったんだよ、きみが悪いよ。」お互い自分の言い分を相手に話して、なかなか解決しません。机を倒した時に、倒された人が「私の机が出張っていたのでごめんなさい。怪我はなかったですか?」と心配されたらどうでしょうか。……「大丈夫だよ。僕が前をしっかりと見なかったから、君の机を倒してしまったんだ、ごめんなさい。」と答えるでしょう。お互い自分が悪かった部分を認めて相手に伝えたからこそ、お互い謝れたわけです。お互いが相手の悪いところを言い合ったら謝罪はなく、言い争うばかりとなります。

私は、やんちゃで、いたずらな子供で小学校時代は、先生から「水野は、曾我小学校開校以来の問題児」と言われました。毎日のように先生に叱られていました。ガラスを三日連続で割っては叱られ、授業中に私語をしては授業妨害だと叱られ、上級生と喧嘩をしては、先輩に逆らうことは良くないと叱られ、学校にはまるで、叱られるために登校している生徒でした。そのたびに、母は、「先生に言われたことをしっかりと守りなさい。友達の気持ちを考えなさい。人に迷惑をかけないようにしなさい。」と私を諭しました。

ある時、先生が勘違いをして、私を叱った時がありました。窓側の女の子が筆箱の中にあった小さな鏡を出した時に反射して、黒板に光が当たったのです。先生は、私のいたずらと勘違いして、物凄い勢いで怒りました。しかし、それは真面目な女の子の鏡の反射した光でした。家に帰って、母に「先生が僕がやったことではないのに、大声で僕を叱った。」と訴えました。すると母は、「喜代治がいつも先生を困らせているから、またあなただと思ったのよ。普段の行動が大事だね。裏を返すとそれだけ喜代治のことに気をかけてくれているんだよ。先生に勘違いされないような喜代治になりなさい。」と話してくれました。次の日に学校に行くと言われて職員室に呼ばれて、先生が私に謝ってきました。「水野、昨日は悪かったな。先生は鏡は水野のいたずらと思ってしまった。いつも、お前はいたずらしているから、でも女の子が泣きながら私の鏡です。喜代ちゃんではありません。と申し出があった。先生の勘違いだった。すまん。」と謝ってくれました。「僕が普段、先生に怒れることばかりしているからいけないんです。先生は悪くありません。」と私が言うと「君のことは、一番心配しているよ。頑張れ!」と励ましてくれました。私は、先生に信用されるような生徒になろうと心から思いました。

母が、「勘違いして叱った先生は許せないよね。」などと言わずに、勘違いされる日々の自分の生活を見直ささいと言ってくれた母の言葉を今も感謝しています。

今日のキヨたん

続ける

続けることは簡単ではない

面倒に思ったり疲れたり

でも……

続けていくと

途中で止めることが、

もつたいないと思うようになる

そして、さらに……

続けていくと苦にならなくなり

続けることがあたり前になる

その時……

続けたことがあなたの力になる